豊庄だより

第 649 号 2021 年1月 25 日

福岡市早良区南庄２－２６－１３
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長　西尾　達

今号は大学入試の話です。「共通テスト」が1月 16～17 日の 2 日間に渡っておこなわれました。コロナ禍の中で、会場となった大学も受験生も大変だったと思います。1 日目が国語、英語、社会。2 日目が数学と理科。試験の次の日の新聞に問題が載っていました。1 教科の時間がどれだけあるのか知りませんが、国語の問題は、新聞の 3 面弱、縮小して掲載されていたので、実物は 5～6 ページになるのでしょうか、問題文を読むだけでも大変そうです。1 問目は香川雅信『江戸の妖怪』。全く知りませんでした。2 問目は加能作次郎の『羽織と時計』。1918 年の作品でした。こちらも耳にしたこともありませんでした。出題者がどこから見つけ出してきたのかと思われるような問題文です。私が大学を受けたとき、その大学の問題が新聞の社説で、私はその社説を読んでいました。この当時、A 新聞社の社説は入試問題に使われる率が高いと仲間内では認知されていて、新聞を読むなら A 新聞と決め、受験勉強の一環として愛読していました。試験の日、問題文を見て、「出ている！」と驚きと感動で一瞬ニヤリとしましたが、設問は難解で、結局、この大学には合格できませんでした。現役と浪人の 2 回、チャレンジしたのですが、どちらもアウト。よほど縁がなかったのか、自分の実力が不足していたのか、言い訳ばかりをしていました。

1 月 19 日

国語のことはこれくらいにして、今回の問題で驚いたことを書きます。それは社会（世界史）の問題でした。世界史は私もかつて入試問題といて選択していたため、少しくらいは解けるかなと思い、チャレンジしたのですが、さっぱりでした。大きな問題が5つあり、全部の設問数は 33 問。内容は、世界史を扱ったものですが（当たり前ですが）、「地図や写真、グラフなどの資料が多くあり、資料を読解しながら世界史的な知識を連動させないと正答できず、思考力を問う問題が多く、難化している」と、予備校のコメントが新聞に載っていました。そうした中、驚いた問題がありました。それは、問題文のちょうど真ん中ぐらいのところにありました。イギリスの作家、ジョージ・オーウェルの『1984 年』が問題文に使われていたのです。「共通テスト」は高校で用いる教科書の内容から出題されるそうで、ということは、『1984 年』は世界史の授業で取り上げられているのか！と驚き、また、それが全国規模の「共通テスト」に取り上げられている！私が受験生だったら、ニヤッとしていたと思います。と言っても、設問はわずか 2 つ。私も説いてみましたが、正答率は50％でした。最初の設問は、『1984 年』と「スターリン」はすぐに結びつくので、正解！しかし、2 問目は、中国の古い書物との関係を問うものでさっぱり分かりませんでした。さっぱりわからなかったことを腹いせにするわけではありませんが、歴史を改ざんしていく『1984 年』の主人公のことを問題にするなら、設問を中国の古文書との比較ではなく、財務省や防衛省の改ざん問題との関係で設問を作ればもっとよかったのにと思いました。

今回、大学試験問題を解きながら（いや、正確には「眺めながら））、細かな問題の連続にかつての入試問題との差異を感じました。数学などは、問 1、問 2 くらいまでは、細かな問題でしたが、後半は、問題は 1 行くらいで、解答の欄はスペースが大きく取られ、解答の過程から採点され、配点も大きかったように記憶しています。また、「共通テスト」などというものはなく、全くの一発勝負。そのためか同級生には（偏差値で輪切りができない）個性的な友人が多かったなあと思い出します。良き時代でした。　　※本文と写真は関係ありません。